

春が来た どこに来た?

からす新聞

第11号

子がらす の巣立ち



発行所 東京都中野区中央5丁目1番2号西田ビル4階 〒164-0011 からす新聞本社 電話03-3382-5963 ©からす新聞本社
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

春と言えば酒。ああ、そうではなかった。春
と言えば桜、桜と言えば花見、花見と言えば
酒、こういふ手続きを踏まなければいけない。
「春」と一口に言っても新年早々をさす場合もあ
り、混乱を来しがちだが、今、話題にしている
のは、三月・四月の方の春である。

春という言葉から人が抱くイメージは様々で
ある。私にしたって、花見酒のことを考えて
舌舐りをしているばかりではない。寒がりの私
にとっては、酒よりも、漸く寒さから開放され
るという思いが強い。のんびりした景色の中
暮らしているのが、新緑の季節であるという印
象もあり、仕事柄、一年の区切りという感覚も
ある。

生まれてこの方ずっと、ここ阿佐ヶ谷の南の
はずれ、古びた団地住まいである。居所だけ
はなく生活形態に関して考えても、コンピユ
タに依存する度合いが高まったおかげで出かけ
ることと酒を飲む機会が減ったという点を除け
ば、ここ二十年以上ほとんど変化していない。
それでもやはり、春は出会いと別れの季節であ
る。私自身が変化しなくても、新しい学校や会
社に入ったり、無職や浪人になったり、転居し
たりと、周囲では様々な出会いと別れが発生し
ている。

人間を形成するのは環境なのか遺伝なの

か。「生まれたばかりの子どもを預けてくれれば
どんな人間にでも育て上げてみせよう」と言った
のは、ロンフロソだったろうか相当に怪しい
記憶だな。確かに、環境の影響は決して少な
くはない。私だって、この場所での時代に生
まれ育たなければ、こんな難儀な性格ではな
く、もっと素直な人間になっていたかもしれな
い。勿論、もっとややこしい人間になっていた可
能性だってあるわけだが……。コンピュータと
オートバイのない時代に生まれていたら、どん
な生活をしていただろうか。長脇差を片手に東
海道を闊歩する渡世人になっていたか、王侯貴
族に囲われて音楽活動に専念していたか。

その一方で、持って生まれたものの力も侮
り難い。別の時代と場所に生まれたとしても自
分はこうであるに違いない、というような思い
を抱く部分もある。また、外見や声に限らず、
意外なところで、血族との類似を発見して驚く
ことは誰にでもあるだろう。もっとも、家族と
の比較は、環境とも重なり合っている部分が多
いので、切り分けが難しいところでもある。

専門的な意見はその道の人々に委ねるとする
が、直感的に、環境と遺伝のどちらがその人
間を形成するのに影響しているに違いない、と
思うのは私だけではない。持つて生まれた
ものを今から変えることはできないけれど、環

(八面に続く)

今日の紙面

- 二面 オララ面
- 松本と話そう、ピン、ボン、バン
- 三画 芸術面
- レイズ・ギャラリー
- 四・五画 娯楽面
- 卒業記念パーティー
- みんなの詩
- 世紀末政治予報
- 六画 アメリカンレポート
- ヤンヒポ
- 七画 語面
- のんびり行こうぜエスパーニャ
- 八画 教養・トビックス
- 八八堀井の法律教室

からす新聞は学習塾カラーズ
が母体となつて、世
界に文化と芸術を発
信すべく発行してい
る新聞です。
誰でも自由に参加
できます(無茶じゃ
ない範囲で)。



松本と話そう。ピン、ポン、パン

今日も前号に引き続き10代の人達にビートルズの話をしてよう。

メンバーは、ジョン・レノン(G・Vo)、ポール・マッカートニー(B・Vo)、ジョージ・ハリスン(G・Vo)、リンゴ・スター(D・Vo)、全員、英国のリバプール生まれ。

1957年、ジョンのバンド、「クオリーメン」にポールを誘い、加入。(ジョンは16才、ポール15才のとき)のち、ジョージがまるでスターカーのようにバンドに付いて回るようになり根負けしたのと、私生活で色々使えるという理由で加入が認められた。(そのときジョン17才、ポールはまだ15才、ジョージは14才)リンゴの加入はまだずっと後でのことだった。

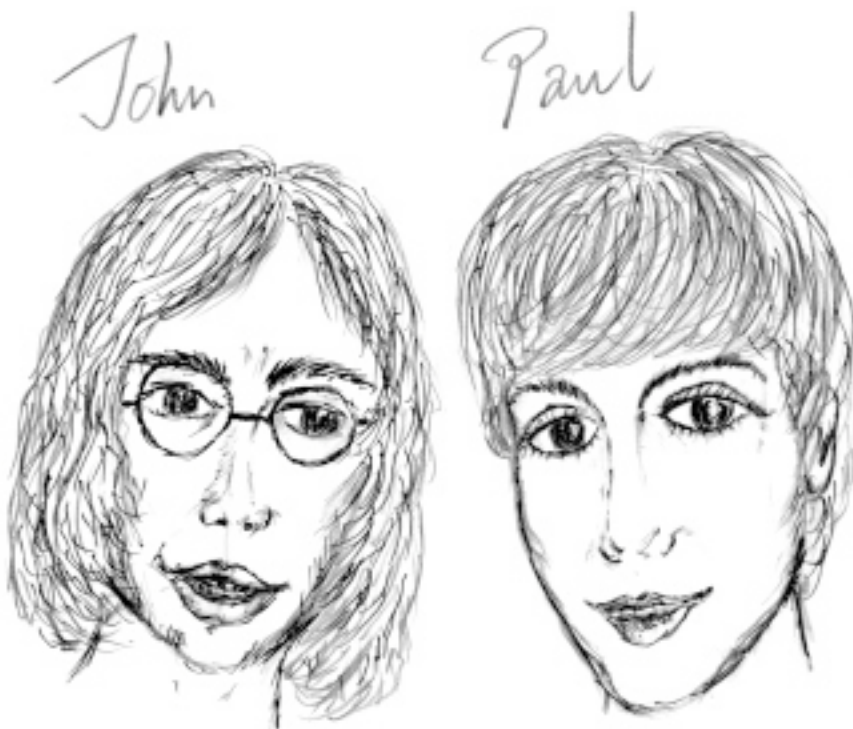
時は経ち1962年、あらゆる面でタフになった彼らはすでに改名していた「ビートルズ」というバンド名で、シングル「Love Me Do」でデビュー!!

リンゴの加入はその直前のこと。「Love Me Do」の録音には間に合わずそこではリンゴはドラムを演っていない。

以降、1970年に正式に解散するまでに彼らは、20世紀に最も成功した音楽家へと変貌を遂げてしまうのだった。その期間に出したアルバムを挙げてみる。(英国版に限定)

- 「Please Please Me」('63)
- 「With The Beatles」('63)
- 「A Hard Day's Night」('64)
- 「Beatles For Sale」('64)
- 「Help!」('65)
- 「Rubber Soul」('65)
- 「Revolver」('66)
- 「SGT. Pepper's Lonely Hearts Club Band」('67)
- 「The Beatles」(俗称「White Album」)('68)
- 「Yellow Submarine」('69)
- 「ABBEY ROAD」('69)
- 「Let It Be」('70)

1970年にはもう活動を止めていたので、実質7年間で12枚のアルバム。1枚だけ完璧な手抜きがあるけども、それ以外の内容の濃さを考えると、やっぱり凄い。ちなみに俺はこの7年何やってきたっけ? あ、やっぱり、とんでもなく凄い。



「お薦めは?」なんて尋かれると困る。俺らの内蔵が全て揃って1つであるように、これら全部でビートルズだから。でも内蔵の器官それぞれに特徴があるようにこれらぜんぶ個性的。よく彼らの凄さの1つとして挙げられるのが、決して同じことを繰り返さなかったこと。実験し続けたこと。そしてそれでいて常に記録的なセールスになったこと。考えてみいよ。そんな連中、今いる? 奇蹟だったんだよね。

そんなんだから何か1枚を選んでこれがベストだなんていうのはナンセンスなんだ。でも「好き・嫌い」という基準に立って、どうしても選ぶとしたら...。そうだな。

2月18日、1:18現在では1位「Rubber Soul」2位「Revolver」3位「ABBEY ROAD」ってとこかな。ちなみに現在までの世界中での累計売り上げベスト3は1位「Let It Be」2位「ABBEY ROAD」3位「SGT. Pepper's Lonely Hearts Club Band」となっている。

あと、そうだね、曲単位でのマイ・フェイバリット・3は2月18日1:25現在では、1位「Strawberry Fields Forever」(シングルのみ、米・日盤では「Magical Mystery Tour」というアルバムに収録)2位「In My Life」(に収録)3位「Hey Jude」(シングルのみ)ということになりそう。明日は分からないよ。Tomorrow Never Knowsだ。

「お薦めは?」と尋く人。これを何か参考にしてくれ。彼らの12枚のアルバムが、初期、中期、後期と大雑把に3区別されるということ。ちょうど俺らに幼児期だの、青年期だのがあるように。で、その特徴を言うなら初期<>:圧倒的にジョン・レノンの存在が目立つ。ロックンロールの影響が色濃く反映され、勢いとメロディーで押しに行く曲が多い。演奏も雑。フィルムで見られる、彼らが「ウーッ」って首を振っているコンサートシーンはほとんどこの時期のもの。ちなみにこの時期のジョージはとてアホっぽい。中期<>:もの凄い勢いで彼らが成長していく時期。人間の思春期に当てはめていいと思う。フィルムで見ると彼らの姿もまぶしいばかりにオーラというか彩気というか放っている。ジョンとポールのプラスのライバル意識が見事にぶつかり合い、光や熱を生み最後は一つに融合合っている。最後の曲、「A DAY IN THE LIFE」なんかその究極の状態。また、思春期にはドラッグに関心を示すように、この時期の彼らは、の頃はマリファナ、の頃はLSD(幻覚剤)を常用していた。特に、なんかはそのラリった雰囲気全体を支配している。(10代の君ら、だからって、俺も私もなんて思うなよ。奴らは天才だからそのドラッグの影響で芸術の花を咲かせられた。凡人はただ、だらしくなるか、気遣いになるかどっちかだから。何?

自分は天才だって?)後期<>:人間でいう思春期のあとの青年期。結婚して行く時期。大人。ジョンが、小野洋子という日本人女性と結ばれ、これまで一緒に騒いでいた仲間たちから離れていく。つまり、

ビートルズから精神的に離れていく。そしてついには解散へと向かう。だから、ジョンのやる気のなさ、と同時に洋子への思いが全体にある。それに対してポールは「じゃあ、俺ががんばる」という意気込みと「ジョン、離れていくなよ。」という思いからとてもエネルギーになっている。それでこの時期のポールはとて痛々しいけど凄く格好いい。彼のキャリアの中で(ソコを含む)この頃だけが唯一、あの童顔(カワイイ顔)じゃなくなっている。彼の代表作がこの時期に集中しているのはこの背景があったからだ。(例「Hey Jude」「OB-LA-DI, OB-LA-DA」「LET IT BE」「GET BACK」「Long And Winding Road」など)一方でジョージはそのスキを抜けて「Here Comes The Sun」なんていって、日が登ってきた、雪が溶けて来たなんていって調子付いてきている。アホなのかもしれない。

とまあ、長々と書いたけども音楽は耳に入らなくやどうしようもない。まずは聴くことだ。自分で感じる事だ。第6感まで全開にして。君らがビートルズにアプローチするのに何かのヘルプになったり、きっかけになったりしたらとても嬉しいよ。そして20才過ぎて酒飲みながら朝までビートルズネタに盛り上げられたら、もっと嬉しいだろうね。

Rei's Gallery



目の前のバラバラ

ピカソやブラックはキュビズムという、人物の顔を左右、崩したり、物の形をずらす絵画表現をしていました。

私も今回キュビズム表現をやってみました。

まず線を使って全てのをずらし、人物の表情は二面性をテーマにして、左の口は閉ざして右の口は開けている顔や、片目は閉じてもう片方は開けている顔に作っていきました。

また、空間のずれにもこだわりました。

どこがどのようにずれているのか探してみてください。

卒業記念パーティー



左
星野

真ん中
中野区立二中出身の山田一摩君
高校を卒業後、アメリカに移住
を決意。

左の二人
毎年懲りずに演奏する人たち。
右
中井小先生



長野に旅立つ西川姉弟

左 / 姉
裕美。来月から長野レポートを送ってく
れる予定。乞う御期待。
右 / 弟
慧(天才くん)。サッカーでも勉強でも世
界をあっと言わせてくれ。

檻の中のメンデル

若尾 喜重

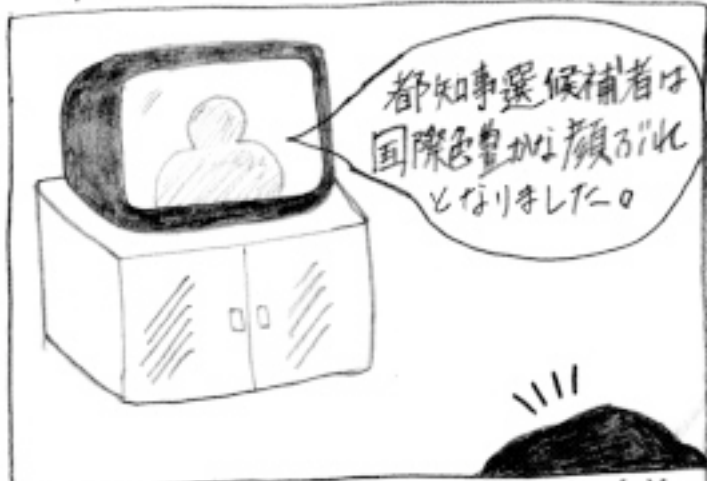
あなたは わたしの両親から 生まれたの
ではないから わたしではなく
わたしは あなたの両親から 生まれたの
ではないから あなたではなく
あなたが わたしの両親から 生まれれば
わたしになり わたしが あなたの両親か
ら 生まれれば あなたになり
ちよつとした 血のいたずらで わたしは
あなたになり あなたは わたしになる
あなたは 裸の王様で いつしか 傲慢に
なり わたしの自意識過剰を 刺激し続けた
飲んだくれの 意志薄弱の やさしさは
いつも 勉強 努力 根性によって 圧殺さ
れた
かくして 動物園の檻の中で メンデルは
忘れ去られた

いみな

佐藤 良示

瞳を閉じると儼に浮かびし貴女
貴女の姿、今日は何故か哀しく
街並は、グレイの石碑
陽だまりに、愛の花束活けて
ただそっと掌を合わせれば
春の風に舞いながら
貴女の香り周辺に漂う。
長き黒髪を靡かせて
白砂と戯れる貴女
帆をあげて二人で船出したあの日
舵をとる片側で
波浪の揺りかごに貴女は夢の中
「みている世界の景色は何の色」
白髪の間清せし中年の年齢に
蘇る。青春時代の懐慕の情景が
物故なりし貴女なれば!!

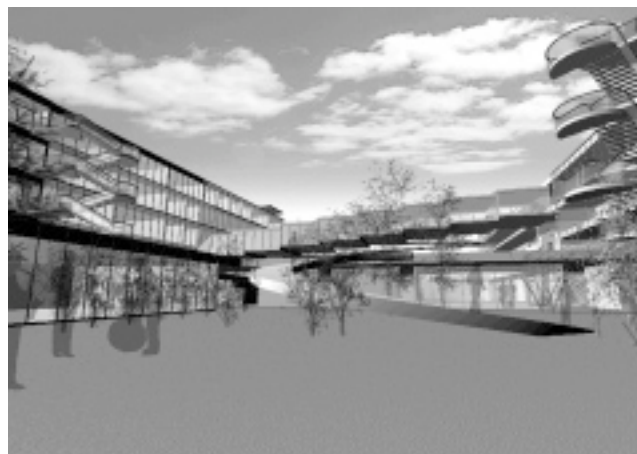
He is the rainbow?



hideの死を契機に語りあった二人。松本ピンポンパンとYoshiki大好き君。



謎のコンビ
可能性は無限大?



横須賀高校プロジェクト

Ken-ichi Shinozaki, architect

5-12-3 Asagaya-Kita, Suginami-ku, Tokyo,
Telephone & Facsimile: 81-3-3223-0456;
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp

篠崎健一アトリエ

ヤンヒポ通信

今回もやってきました

毎回楽しい出来事をお伝えして来たヤンヒポ通信だが、ついにネタがついてきた。しょうがないので今回は地味なネタを披露しよう。だれでも日常で起こりえる事のはずなので共感してもらえれば嬉しい。

時は慌ただしい日程の中強行したL.A.紀行の初日、以前書いた事の有る24時間営業のレストランに出向いたのが午前3時過ぎ。いつもの屋外席はクロードになっていて止むなく店内で食する事になった。以前の報告を読んでいない方の為に少し補足するが、米国では公共の屋内ではほぼ禁煙になっている。そのため喫煙者は外テーブルに座り喫煙するのである。本来ならタバコの吸えない席なんかはお断りの所ではあるが、いかんせん大変空腹だったのでそちらを選択した。店内の雰囲気としては日本のファミレスに近い。ただ、テーブルのサイズは日本より小ぶりにできていて基本的に2人掛けのようだ。早い話カップルが向かい合って座っても情熱的な会話を楽しめるようになっていた。

しかし、米国の夜というのは何が起こるか解らない。最近では外出するときには必ず拳銃を携帯するように心がけている。カウボーイから身を守る為には致し方ない配慮なのだ。45口径オートマチックを腰の背中側に差して外見には携帯している事をわからないようにする。そうしないと犯罪者に奪われて自分が危険な目に会う可能性が有るのだ。

テーブルに案内されてパスボーイがお冷を持ってくる。注文するものはなから決まっていた「ランバージャック」という草履より大きいハムステーキに卵3つ分を好きに調理したもの、じゃがいものぶつ切りを一山、お好み焼きサイズのホットケーキが2枚、それにコーヒーで6ドル50セントだ。日本に戻っている間中憧れていたメニューである。目的のメニューを注文して一息ついたらやはりタバコが吸いたくなる。しかし、そのためには店の外へ出て吸うしかない。いくら米国ナイトとはいえ我慢できる物では無い。注文が終わると同時に席を立ち表へ出た。タバコが美味しいと思う瞬間である。気持ち良く吸っているのと店のなかから熱い視線を感じるではないか。最初は何気なく気が付かない振り装っていたが、向こうがじっと見つめているのでこちらも興味有る素振りをする事にした。そう思っている色々な感想が湧いてくる。性別は女性、年齢は大体20台半ば前、透き通るような白い肌、薄緑色の瞳、少し茶の混じったショートヘアーの金髪、背丈は自分とあまり変わらず180弱、身なりはシンプルなニットを直に着ている。全体の印象を例えたとしたら、もし日本で歩いていれば間違いなくトップモデルに無い無いタイプなのだ。しかし、ヤンヒポはそんなに自信過剰だとは思っていない。多分読者もそんな幸運は信じないだろう。しかし、人間は頭で解っているけど今回は本当にラッキーな日ではないかと思う物だ。その結果を導き正当化するために色々な理由や条件を考え出す。例えば、そんな女性が一人でこんな店の入り口に腰掛けているのは友人との待ち合わせで、目が悪く自分を待ち人ではないかと思っているのではとか、女性一人で食事はやはり危険なので、人畜無害と思われるヤンヒポと席を共にしようなど。ま、かなり無理筋だとは解っているつもりだ。そんな思考を瞬き程の時間で巡らした後、兎に角店内へ戻る事にした。しかし、そうすると彼女の目の前を通る事になる。いったいどんな態度をすれば一番いい結果になるのだろうか。こちらから声をかけてみるか？しかし、つたない英語で底が知られてしまうのでは？単に、全くの勘違いでは？そうこうしているうちになんの対処もできず素通りして自分の席に座ってしまった。やはりかなり後悔したのだった。席についてもう一度彼女の方を見ようとするかどうかの瞬間、彼女はこちらに向かって来る。思考をまとめる間は一切無い。そんなこっこの状態など全く構いなしにトドメの一言が飛んできた。

「May I stay with you?」

「Yah!」

兎に角、考えをまとめなくちゃ!

何か気の利いた英語は無いか?

いったい目的は、、、、?

兎に角、現実問題彼女は自分の向かいに座っている。

こうなると、兎に角状況を的確につかむ必要が有る。彼女はやはりきょろきょろと表を見回している。誰かを待っている素振りだ。そこで



まず一言「待ち合わせなんですか?」「そうよ」なるほど、待ち人が全く現れず夜中に一人で待つのは心細かったのだろう。日本人は善人に映るようだ。これで疑問の大半は解消された気がした。次に気になるのは、こういう場合普通待ち人は男性である。そんな時に自分が目の前に座っているのは何かといけいけいではない。ただ、現実的にこういう状況になったのだから、このまま何食わぬ素振りを通さなくてはならないのだ。ちなみに、彼女は相変わらず外を見回しているがウエイトレスや他の客が通ると気軽に挨拶を交わしている。どうやら店の常連のようだ。ま、女性だし顔見知りなら直接的な危険も無いと判断できよう。そうこうしているうちに注文した食事が運ばれてきた。小ぶりなテーブルの7割がたを皿がうめる。当然ながら同席人はまだ何も注文していない。兎に角、平静を装っている自分は運ばれて来たものを食べ始める事にした。そんな中でも同席人に薦めた方が良いのか、逆に失礼ではないかだとも考え合わせていた。そんな思考も虚しく次の一撃が飛んできた。「このハムステーキがじつてもいい?」一も二も無く答えは

「Yah。」

すると同席人はハムステーキを手で少し千切り口に放り込んだ。その後すかさずウエイトレスにランバージャックのハムステーキのみ単品で注文した。また、ここでも会話の糸口を見つけた。「おなか空いてるの?」もう、おなかペコペコよ、その時に解った事だが、ハムステーキを単品で頼むと2ドル50セントなのだ。同席人がウエイトレスに確認していた。しかしここまで来ると、およそアメリカ人は大らかというか、細かい事は一切気にしない人種だと思つづく。ま、ヤンヒポが善人でよかったもんだ。兎に角、無用な気遣いも必要無い事が判明してきたし、待ち人がどんな人間なのかは一抹の不安が有るにせよ、食事を進める事にした。その間も同席人は外に注意を払っている。

自分が半分ぐらい食したあたりで同席人のハムステーキが運ばれて来た。ハムといってもステーキ程の厚さがあるので、いわゆるステーキナイフもついてくる。そして、同席人は目の前に置かれた皿を一息見つめてケチャップに手を伸ばした。ケチャップやマスタードは元々テーブルに置いてある瓶タイプの物だ。読者も経験が有ると思うが、それって中身が残り少ないとなかなか出て来ない物だ。同席人も同じ悩みを抱えたようだ。すると対象者は急に目が曇り力いっぱい自分の髪の毛をつかんだ。よほど悔しかったのだろう。その次の瞬間ハムステーキの乗った皿とケチャップの瓶がぶつかって割れんばかりの音をたてた。そうやってケチャップを引き出すという方法に訴えたのだ。これも経験が有ると思うが、ケチャップを逆さにして勢い良く振ると瓶の口がさらに当たってしまい、割と大きな音がして周りも当たった本人の方がドギマギする事がある。しかし、対象者は親の敵のように瓶の口をさらにぶつけている。その音で店内が静まりかえる程の音量だったのだ。そんな光景を目の当たりにしたヤンヒポは兎に角「あーれ?なんかへんだぞう」当然の疑問だろう。

目的を遂げた対象者はステーキナイフをフォークで食べ始めた。ヤンヒポの脳裏には危険な匂いがブンブン漂ってきた。しかし、自分も食べないと話が進まない。素振りだけは平静を装う以外には無い。フォークでスクランブルエッグを口に運んだ瞬間、目の前30センチをどう見てもステーキナイフが横切った。幸いにも次の瞬間ヤンヒポは頭を引いて事態の見極めができた。目の前で対象者がステーキナイフを振り回している。あたかも目の前の中空を切り裂くかのように。身の危険を感じたヤンヒポは腰の拳銃に手をあてた。当然弾撃が込められているので対処はできるはずだ。幸いにも対象者はひとしきり中空を切り裂いた後、何事もなかったかのように、ハムステーキを食べ続けた。しかし、右手を腰から出すには多少時間がかかった事は理解してもらえよう。その後はヤンヒポも対象者から注意をそらす事ができない。できる限り口に放り込み、頭を下げている時間を短くしたかった。

ヤンヒポは無事に食事を終えた。後は背中をイスの背もたれに押し付けてなるべく距離を稼ぐ。腰から手は離れている。そんな中口をついて出てきたのは「友達は何時ごろくるの?」当然の疑問だろう。しかし、対象者から帰って来たのは「そんなの知らない」だった。ヤンヒポは尚も食いが下がる「じゃあいつまでここにやるの?」「いつつ朝までいるからよくわかんない」ありやったりや、常連といってもかなり患っている方だったのだ。ま、良く考えると見た目では解らない部類のものなので自分の甘さを恥じるべきなのだろう。

通常、レストランの支払いは伝票の金額にチップを乗せて置いていく。しかし、今回は無理だろう。伝票をつかんでレジまで行き、代金とチップを一緒に支払う。しかし、よくみるとすっかりハムステーキ一枚余計に書き入れて有る。「ちっ、ウエイトレスも解ってやがったんだ」しかし、2ドル50でナイフと拳銃を喧嘩させる事はない。まとめて面倒みますよ。クワバラクワバラ



常識

原点シミュレーションその五(スペイン編)

たとえば挨拶^{あいさつ}は世界の常識といっていいでしょう。国や人種などに関係なく、人間同士のコミュニケーションになくはならないものだから。ところが世界に通用しない、その文化独自の常識もたくさんあります。今回はスペインを旅しながら、日本との常識の違いを考えます。(望月)

その一

列車と時刻表をこよなく愛する鉄道マニアたちの楽しみの一つは、時刻表を駆使^{くし}して練り上げた緻密^{ちみつ}な計画を元に旅をすること。オタク? ふん。呼びたければそう呼ぶがいい。俺は君たちを置いてゆく。俺は東海道全線駅名を暗唱できることに満足しているわけではない。

さて、春にしては汗ばむほどの朝の日差しを浴びつつ、僕の現在地はスペインの首都マドリードのアトーチャ駅。アントニオに紹介してもらったホセを訪ねるため、これからマラガを目指す。地中海に面し、遠くアフリカをも望むリゾート都市だ。

列車の発車時刻は午前9時。念のため、トーマスクックというイギリスの旅行社の編集によるヨーロッパ鉄道時刻表を開いて到着時刻を再度確認する。午後2時過ぎとある。ホセには電話でその旨^{むね}連絡。英語が通じたおかげもあって、駅まで出迎えてくれることになった。

「O.K. その時間にギターを持ってホームで待ってるよ」

出発!(午前9時)



到着!(午後5時)

3時間ぐらゐの遅れなど普通のことなのか? ホームに降りると、車掌と運転士が何やらにこにこ顔で談笑中。これで仕事は終わり、どうやら仲間と一杯でもやりにいくらしい。

グラシアス(gracias)

これはスペイン語の「ありがとう」。抗議したからといってどうなるものでもありません。郷に入っては郷に従えの心です。ちなみに、この言葉が嫌味に聞こえることも多分ないでしょう。

マラガ駅にホセの姿はなかった。30分後、目印のギターを抱えて現れた彼に訪ねてみた。「列車が遅れるのはいつものことなの?」「ああ、まったく困ったもんだよ」
どうでもいいことだが、ホセの名前はムニユスムニョスだった。

その二

まず家に連れて行かれてお父さんとお母さんに紹介された。「2日ばかりご厄介になります」
そうホセに通訳してもらったら、「何を言うの。1週間は居なさい」

スイ(si)

これはスペイン語の「はい」。従容^{じゆうよう}として彼の地の常識^{かんじょう}を甘受^{かんじう}すべし。日本人よ、そんなに急いで何処^{どこ}へ行く。観光? 買い物? いったい何を?

「あ、いや、一応他にも行きたいところがあるし」
確かに遠慮もあって2日って言ったけど、本当に次の計画もあるんですよ、お母さん。

「だめだめ! 最低1週間よ!」
すげえ勢いだ。彼女には遠慮がない。どうもこの辺りで遠方のゲストを迎えるときはこんな風らしい。結局僕がマラガを発ったのは6日後のことだった。

結果として、ほんの少しだけでも「生活^{かいま}」を垣間見ることができたのは良かったと思う。でも、パンツ洗ってやるから出なさい、と言われたのには遠慮した。

その三

翌日起きてみたらもう昼時。遅い朝食をご馳走になってから、ホセの車に乗って街に出た。快晴。地中海から吹いてくる風はとにかく乾いている。太平洋の風は、桜の開花を呼ぶ風も花を散らす風も、もっと湿っている。

途中ちょっと寄り道だと言って彼は車を止めた。一緒に来いと言われて後についていくと、彼はレストランのテラスでくつろいでいるおじさんたちの集団に合流。見ると、その中にはお父さん。

シエスタ(siesta)

スペインの人たちの「昼休み」のこと。もともと「昼寝」という意味だが、もちろん皆が寝てしまうわけではない。2時間、あるいは3時間。その時間には、街じゅうが思い思いのゆったりした時間に切り替わる。

「今日はお休みですか?」

「シエスタさ」

「この間テレビで見たけど、日本人ってすごく働からしいねえ。確かに良いもの作ってるよ。俺のホンダ壊れないもんなあ」

ああ、またしてもモノが先行している。日本人のイメージを作っているのは車と電気製品だという、揺るがしのない事実がここにもある。

しかし、こういうことでこの国の経済は成り立つのだろうか。だとしたら驚きだ。僕のようなぐうたら者には、もしかしたら、ここは地上の楽園かも知れない。

(つづく)

中山歯科クリニック

診療時間AM9:00 ~ PM9:00
水曜・土曜AM9:00 ~ PM6:00
休診日・祭日

03-3381-1109

パパ堀井の法律教室

前回、未成年者と取引した相手方には、催告権」というものがあるんだということをお説明しました。その内容は、

「無能力者の相手方は、その無能力者が能力者となりたるのち、これに対して1か月以上の期間内に、その取り消しうべき行為を追認するや否やを催告すべき旨を催告することを要する。」

つまり、「どうするのか」と聞くことができるということですが。但し、その無能力者が能力者となりたるのち「に聞かなくては駄目です。」

「もし、無能力者がその期間内に催告を發せざる時は、その行為を追認したものとみなす。」

これは、先に示した1か月以上の期間内に「無

回答のときは追認したことになる」ということ。「無能力者がいまだ能力者とならざる時に於いて、法定代理人に対しその権限内の行為につき、前項の催告をなすも、その期間内に催告を發せざるるときまた同じ。」

望月君が未成年の場合は、その法定代理人に対して「催告をしない」ということ。

「特別の方式を要する行為については、右の期間内にその方式をふみたる通知を發せざる時は、これを取り消したるものとみなす。」

催告に対する回答をするのに特別の方式を要する行為については、無回答の場合、例外的に追認ではなく取消となる。

「準禁治産者に対しては第1項の期間内に保佐人の同意を得てその行為を追認すべき旨を催告することを得る。もし、準禁治産者その期間内に右の同意を得たる通知を發せざる時は、これを取り消したるものとみなす。」

準禁治産者については後日説明します。

以上を具体的な事例で考えてみましょう。望月君がカラスモーターからバイクを買ったのが一九歳のときだったとします。以下の各場合に於いて、契約は追認されたことになるのでしょうか、それとも取り消されるのでしょうか？

いま望月君は一九歳である。

望月君に催告をしたが、催告期間中に成年に達することもなかったが、無回答だった。

法定代理人に催告をしたが、無回答だった。

望月君は二歳になった。

望月君に催告をしたが、無回答だった。

父親に催告をしたが、無回答だった。

回答は、次回。

Daddy's Law School

があるだろう。

どんなときだってあなたは自由だ。と同時に、他の人々だって自由なのだ。それがこの世の物事を複雑怪奇にしてしまつところだし、だからこそ、面白いのだとも考えられる。

みんなが合唱している部屋に入っていく。あなたも参加するわけだ。でも、まず、みんなが何をどんな風に唄っているのかに耳を傾けよう。その曲が素敵だったら、一緒に唄ってあげよう。一味足りないと思ったら、新しいコーラスのパートを考えてもいい。もし、気に入らなければ、他の歌を唄った方がいい。どうやってとところで、あなたはあなた自身の声で、あなた自身の歌を唄うことになる。

こんな貧相な例えで何かを感じてもらえるだろうか？ 無理かもなあ。

(全太)

(一面の続き)

境に関しては事情が異なる。自分の力で変えていくことも、逆に、自分が変えられてしまうことも可能である。人間は常に環境を変化させ、同時に、環境によって変化させられている存在であると言った方が正しい。私が今ここで息を

していることによつて、地球上の酸素は消費され続けている、眠っている間でも吐き出した二酸化炭素が多くなれば室内は酸素が欠乏気味になり脳の働きが鈍くなる。脳の働きが鈍くなると筆が進まない。筆が進まないとい

切りに間に合わず、からす新聞の発行が遅れ、多くの読者が嘆き悲しみ、憤りのあまり、暴動が起きて、東京の治安が乱れ、すわ日本転覆

。桶屋が儲かる式の、何とも無理矢理でとてもしやないが適切とはいえない例ではあるが、意識的にせよ、意識しないにせよ、私と世界とは常に相互に干渉しあっていることは間違いない。

このような世界対自分という視点ばかりでは

なく、対家族・対友人・対学校・対会社などなど、人は様々な環境を抱えて生きている。楽しいこともあるし、不愉快なことだってあるだろう。入学・卒業・転居といった出来事は、そんな環境の大きな変化の機会だ。期待と不安が入り交じつた。などという話ではなく、旅立つ人々には、この折角の機会に、自分と自分の置かれている環境をよくみつめてもらいたいものである。先に書いたように、環境とそこにおける人間とは不可避の相互干渉関係にある。当然、環境そのものと環境内の他者をよく知ることは重要だ。新しい場所を、人を、空気をじっくり眺めてみよう。人間はたい

ていことにはすぐに慣れてしまつ。だから、慣れてしまつ前によくみつめてもらいたいのだ。そこで今までと違う何かを発見したら、なぜなのかを考えるべきだろう。理解できるかもしれないし、できないかもしれない。納得できるかもしれないし、できないかもしれない。孰れにしても、そこには今まではなかった何か

1クラス4人までの少人数制学習塾

ウアア

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451

編集後記

からす新聞第十一号、無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発刊予定日は四月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

来社見学を御希望の方は左記のところへ。
丸ノ内線新中野駅徒歩〇分